

中学校卒業後の青少年による，地域活動及び
公民館事業への参画について（答申）

平成26年2月4日
壬生町社会教育委員の会議

はじめに	4
第1章 調査研究の結果	8
【調査の概要】	8
1 調査の目的	8
2 調査実施期日	8
3 調査の対象および回収数	8
4 調査方法	8
5 先行研究データの引用	8
第1節 地域活動と自己肯定感, 自己有用感の関連性についての調査	9
1-1 地域活動への参加と自己肯定感, 自己有用感との関連	9
1-2 参加した中学生が感じ取っている地域活動のよさ	10
1-3 自己肯定感, 自己有用感と地域活動への興味・関心	11
1-4 自己肯定感, 自己有用感と地域活動への参加	12
第2節 中学生, 高校生の地域活動に対する意識調査	13
2-1 地域活動に対する興味・関心	13
2-2 地域活動への参加状況 (中学生)	15
2-3 地域活動への参加状況 (壬生高校1年生)	16
2-4 中学校3年生の時の地域活動への参加状況	17
2-5 今後の地域活動への参加意識	18
2-6 今後参加したいと思う地域活動	20
第3節 保護者の地域活動に対する意識調査	22
3-1 「中学生による地域活動の推進」に対する保護者の意識	22
3-2 わが子が地域活動に参加することに対しての保護者の意識	24
3-3 保護者が感じ取っている地域活動へ参加したわが子の態度や行動の変化	26
3-4 保護者自身の地域活動への参加	28

3-5	今後の青少年による地域活動で大切になること（保護者の意見）	29
第4節	地域団体の地域活動に対する意識調査	30
4-1	中学生による地域活動の推進に対する周知	30
4-2	さまざまな世代が交流することについて	31
4-3	地域団体による活動への中学生や青少年の参加状況	32
4-4	中学生による地域活動の推進についての周知率と中学生や青少年の参加状況の比較	33
4-5	中学生や青少年が参加した地域活動	34
4-6	自治会での地域懇談会の開催について	35
第5節	青少年に向けて情報を発信するための調査	36
5-1	高校生が地域活動に関する情報を得るのに便利だと考えている方法	36
5-2	地域活動に対して興味・関心が高い生徒の場合	37
第6節	青少年による地域活動及び公民館事業への参画のためのアイデア集	38
6-1	中学生からのアイデア	38
6-2	高校生からのアイデア	42
6-3	保護者からのアイデア	43
第2章	調査研究結果を受けての提言ならびに方策	46
提言1	次代を担う青少年の、今の「出会い」を大切にしよう	46
方策1-1		47
方策1-2		47
方策1-3		48
方策1-4		48
提言2	次代を担う青少年と地域の大人が支えあう環境を整えよう	49
方策2-1		50
方策2-2		51
方策2-3		51
方策2-4		51
方策2-5		51
方策2-6		52

方策 2-7	52
方策 2-8	52
提言 3 次代を担う青少年に地域活動の魅力を発信しよう	53
方策 3-1	54
方策 3-2	54
方策 3-3	55
方策 3-4	55
方策 3-5	56
方策 3-6	56
提言 4 次代を担う青少年の交流の場、仲間づくりの場として公民館の機能を活用しよう	57
方策 4-1	57
方策 4-2	58
方策 4-3	58
方策 4-4	58
第3章 参考資料集	60
資料1 社会教育委員の会議 協議経過	60
資料2 平成25, 26年度 壬生町社会教育委員の会議 名簿	61
資料3 諮問書	62
資料4 調査用紙および調査結果	63
中学生を対象とした調査.....	63
高校生（壬生高校1年生）を対象とした調査.....	65
保護者を対象とした調査.....	67
自治会を対象とした調査.....	69
ボランティア団体、社会教育団体を対象とした調査.....	77
資料5 社会教育委員の会議 グループ協議の記録	79
第1回会議 グループ協議の記録.....	79
第2回会議 グループ協議の記録.....	81
おわりに	84

「結局、4000 という数字が特別なものをつくるのではなくて、記録が特別な瞬間を作るのではなくて、自分以外の人たちが特別な瞬間を作ってくれるものだというふうに強く思いました。」

これは、平成25年8月に、イチロー選手が日米通算4000本安打を達成したときの記者会見で発した言葉の一節です。ファンやチームメイトが自分のまわりに来てくれたからこそ、4000という数字が単なる数字で終わることなく、イチロー選手本人にとっても、まわりの人たちにとっても特別な瞬間となる数字になりました。これは、日常の何気ない営みも、日々努力しがんばっていることも、その過程や結果のすべてを素敵な場面へと変えてくれるのは、まわりにあたたかく見守ってくれている人たちがいるからなのだということが端的に表した言葉だと解釈することができるでしょう。

さて、壬生町教育委員会では、平成24年度から「中学生による地域活動」を推進してきました。地域の教育力の低下や地域の人間関係の希薄化が指摘されている昨今において、中学生が地域活動へ参画することは、地域住民同士の交流を促進する潤滑油のような役割を果たしてくれることが期待されています。中学生が地域のさまざまな活動や行事に参画することは、中学生自身が自己有用感や自己肯定感を高めるだけでなく、中学生が地域住民の一つの核となり、活動を通じ中学生にかかわる多くの人たちの交流やコミュニケーションの場を創出してくれることにつながります。人々が同じ時間に同じ場所に集うことは学びの場にもなり、イチロー選手の言葉にもあるように特別な瞬間を生み出す機会にもなり得ます。実際、地域活動に参加し、多くの人たちとのふれあいの中であたたかい言葉をかけられながら、中学生たちは「誰かの役に立つことができる」喜びを感じ取ることができています。また、中学生が地域活動に取り組む中で見せてくれる一生懸命さや笑顔は、周りの大人たちに清々しさを与えてくれています。このことは、今回この答申を出すにあたり行った調査や活動ごとの振り返りに寄せられた感想などから明らかになっています。地域の大人がもつ力から中学生が学び、中学生の純粋な姿から地域の大人が学ぶという関係が形成されつつあります。宇都宮大学の廣瀬隆人先生によると、社会教育で大切なのは「なりたい自分になるために、お互いから学びあうことだ」ということです。まさに中学生による地域活動の推進は、世代をこえた交流の場となり、なりたい自分を見つけるための学びの場となっているのではないのでしょうか。

先に述べましたように、中学生は、地域というさまざまな世代が集う場で、大人たちにあたたかい言葉をかけられながら自己有用感や自己肯定感を育んでいます。中学時代での地域活動を「なりたい自分を見つける」ための入口ととらえるならば、中学校を卒業した青少年にとって地域活動は「なりたい自分になる」ための出口や着地点ということが出来ます。入口は準備できました。しかし、出口や着地点が未整備のままの状態です。中学生の時に地域に出て「壬生町っていいな」「地域ってあたたかいな」と感じる事ができた青少年にとって、次に続く機会や場が大切になってきます。これが、壬生町教育委員会から壬生町社会教育委員の会議に出された諮問のテーマです。

このたびの諮問を受けて社会教育委員の会議では、全5回の全体会議と全2回の調査研究部会の中で、中学校を卒業した青少年たちが、中学生の時と同じように地域の人たちのあたたかさの中で自己有用感や自己肯定感を育みながら、「壬生町で育ってよかった」という思いを抱いて誇り高さ大人へと成長していくために何が大切なのか議論を重ねてきました。そして、本答申にむけた調査結果をもとに、私たちが携わる社会教育が担う具体的な役割について検討してきました。この結果、導き出されたキーワードが「出会い」と「交流」です。人と人とが会うことはそこに交流が生まれます。人が集い交流することにより、学びの機会も生まれます。教わっていないのにいつの間にか学んでいた。教えているつもりはないのにいつの間にか伝わっていた。そして、これまで意識していなかった地域や社会の営みに気づき、他の世代の人たちの考えや人

間性に直接ふれることができます。「出会い」と「交流」は生涯学習の原点、出発点であると捉えることができるでしょう。この機会を意図的に、計画的に設けていくことが非常に大切なことであるという認識に立って本答申書をまとめました。

本答申書は3章による構成としました。

第1章では、まず中学校を卒業した青少年の地域活動の有効性について探るため、現在推進されている中学生による地域活動と自己肯定感、自己有用感の関連について調査し、その結果と考察を掲載しました。また、中学生と青少年の地域活動に対する意識と取り組み状況、中学生と青少年の地域活動を支える役割を担うであろう地域の大人たちの地域活動に対する意識等について調査を行い、その実態を明らかにしました。

第2章では、調査の結果と社会教育委員の会議での意見を4つの提言に整理し、それに対するより具体的に実行可能な22の方策を示しました。

第3章では、本答申書をまとめる上で基礎的資料としたアンケート調査とその回答結果、および、社会教育委員の会議で出されたいくつかの意見を参考資料として掲載しました。

本答申で使用している「青少年」とは、「中学校卒業後から二十歳前後までの若者」ととらえる用語として用いていくことにしました。また、青少年を対象としたアンケート調査は、便宜上、その年代にある高校1年生を対象として実施しましたことを予めご了承ください。なお、「参画」という用語につきましては、前回の答申を踏襲し、「各々が計画・運営の段階から関わり、責任を分担しながら場面をつくり出すこと」という意味で用い、「参加」は、「参集」「参与」「参画」を包括する意味として用いることとしました。

第 1 章 調査研究の結果

第 1 章 調査研究の結果

【調査の概要】

社会教育委員 5 名で調査研究部会を組織し、研究項目の検討ならびに調査研究用紙の作成を行った。調査の目的や対象などは以下のとおりである。

1 調査の目的

中学校を卒業してからの青少年が、積極的に地域活動や公民館事業にかかわるための諸データを収集し、答申に向けてより具体的で実効性のある方策を壬生町社会教育委員の会議で協議することを目的とする。

2 調査実施期日

平成 25 年 9 月 2 日（月）～ 18 日（水）

3 調査の対象および回収数

対 象	回収数	回収率
中学生 壬生中、南犬飼中各学年 2 クラスずつ	1 年生	1 2 1 89.6%
	2 年生	1 0 8 78.3%
	3 年生	1 1 6 84.7%
壬生高校 1 年生	5 7	35.6%
保護者 壬生中、南犬飼中各学年 2 クラスずつ 上記中学生、高校生の保護者	中学 1 年生保護者	1 2 0 88.9%
	中学 2 年生保護者	1 0 9 79.0%
	中学 3 年生保護者	1 1 7 85.4%
	壬生高校 1 年生保護者	5 9 36.9%
自治会長	5 4	67.5%
社会教育団体、ボランティア団体	3 0	75.0%

n = 8 9 1 (70.7%)

(n=number of cases 回答者総数)

4 調査方法

質問紙による自記式調査法（中学生、高校生およびその保護者への送付・回収は各校に依頼。自治会長および社会教育団体・ボランティア団体への送付・回収は郵送による）

5 先行研究データの引用

平成 23 年度の社会教育委員の会議で調査を行った結果のうち、今回の調査に関連性の高いデータについて引用し考察を加えた。

第1節 地域活動と自己肯定感，自己有用感の関連性についての調査

中学生による地域活動の推進は，中学生の自己肯定感や自己有用感を育むことを目的の一つとして行われている。中学校卒業後の青少年が地域活動に参加する意義について議論するためには，まず，現在推進されている中学生による地域活動が，中学生の自己肯定感や自己有用感の育成にどの程度有効であるかを把握することが大切である。そこで，自尊感情，自己肯定感，自己有用感に関する質問の回答結果と，地域活動への興味・関心やこれまでの地域活動への参加についての回答結果とをクロス集計し，地域活動と自己肯定感，自己有用感の関連性について分析を試みた。

1-1 地域活動への参加と自己肯定感，自己有用感との関連

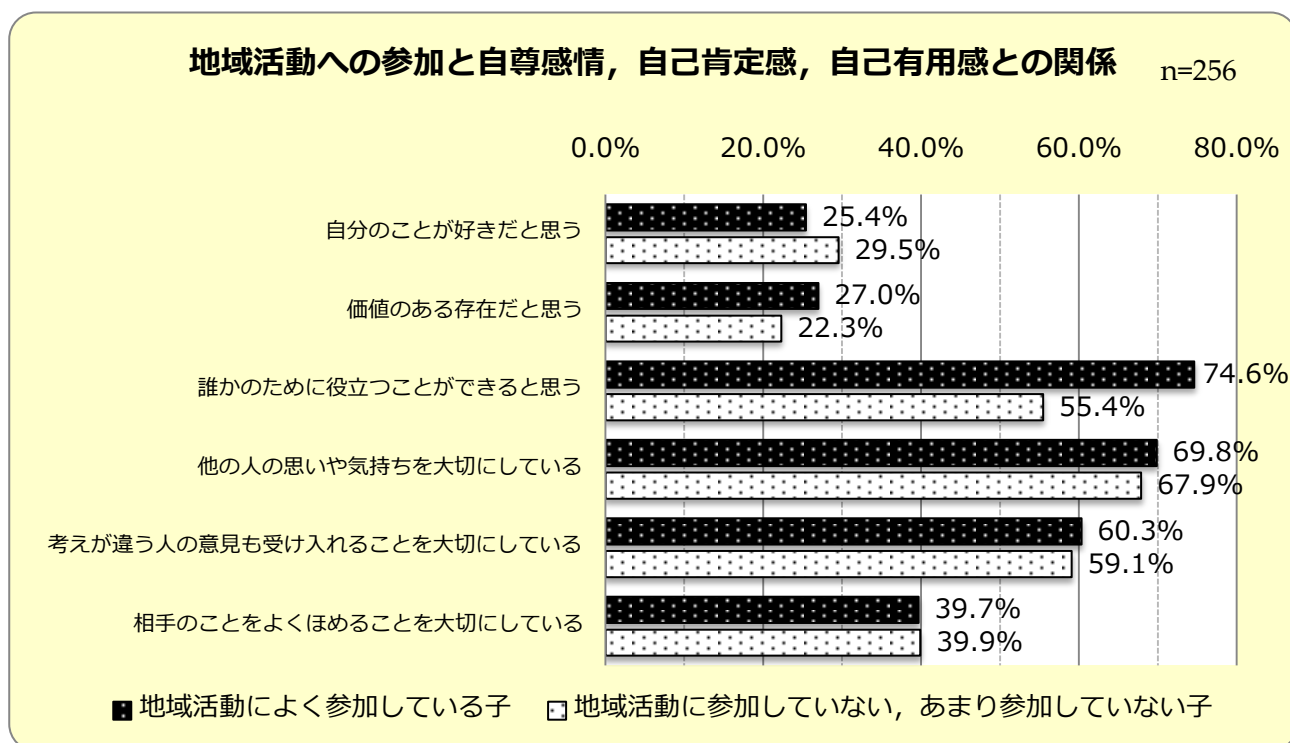
◇地域活動に積極的に参加している生徒は，そうではない生徒と比較して，自分が「価値のある存在」「誰かのために役立つことができる」と感じている割合が高い。

質問 中学生になってから，自分の住んでいる町や地域の行事に参加したことがありますか。（各中学校で実施している「空ビンリサイクル」「廃ビン・ペットボトル回収」は除きます。）

- 1 よく参加している。 2 どちらかといえば参加している。 3 あまり参加していない。 4 参加していない。

質問 自分自身のことについてお聞かせください。

地域活動に「1 よく参加している」と回答した生徒と「3 あまり参加していない 4 参加していない」と回答した生徒とでは，自分自身のとらえ方にどのような差異があるかを分析した。



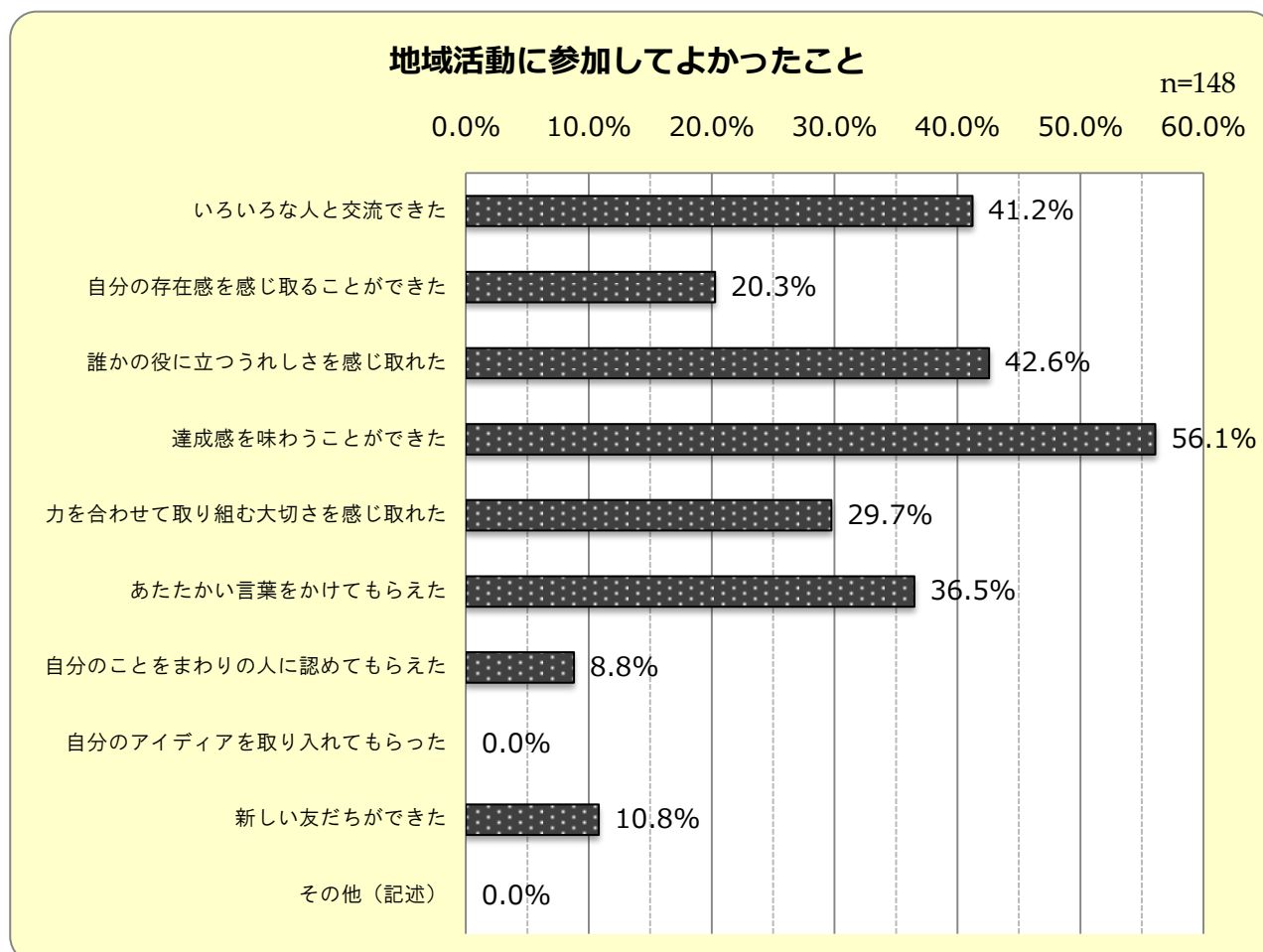
地域活動に参加している生徒は，地域活動にあまり参加していない生徒に比べて「自分は，誰かのために役立つことができる」と感じている生徒の割合が19.2ポイント，「自分は，価値のある存在だ」と感じている生徒の割合が4.7ポイント，それぞれ上回っている。

1-2 参加した中学生が感じ取っている地域活動のよさ

◇地域での活動をとおして、中学生は自己肯定感や自己有用感につながるプラスの感情を味わっている。

質問 町や地域の行事に参加してよかったことは何ですか。（特にあてはまるものを3つ以内で選ぶ）

地域活動に「よく参加している」「どちらかといえば参加している」と回答した生徒へ質問した。



この結果から、地域活動に参加し、いろいろな人との交流の中で、あたたかい言葉をかけられながらさまざまな活動に取り組むことをとおして、誰かの役に立つうれしさを感じ取ったり、やり遂げた達成感を味わったりしながら、生徒たちは自己肯定感や自己有用感を育んできたことが推測される。

しかし、自分のアイデアを取り入れてもらったことに特にうれしさを感じるものが少ない。このことから、現在の地域活動は中学生にとって予め用意されている舞台であり、中学生たちのアイデアが取り入れられるような場面があまり設けられていない状況であることがわかる。この結果から、今後、地域での活動でより自分の存在感が確かめられるよう、中学生の意見やアイデアが反映される「参画」の方向につながるよう、活動のあり方について考えていく必要がある。

1-3 自己肯定感, 自己有用感と地域活動への興味・関心

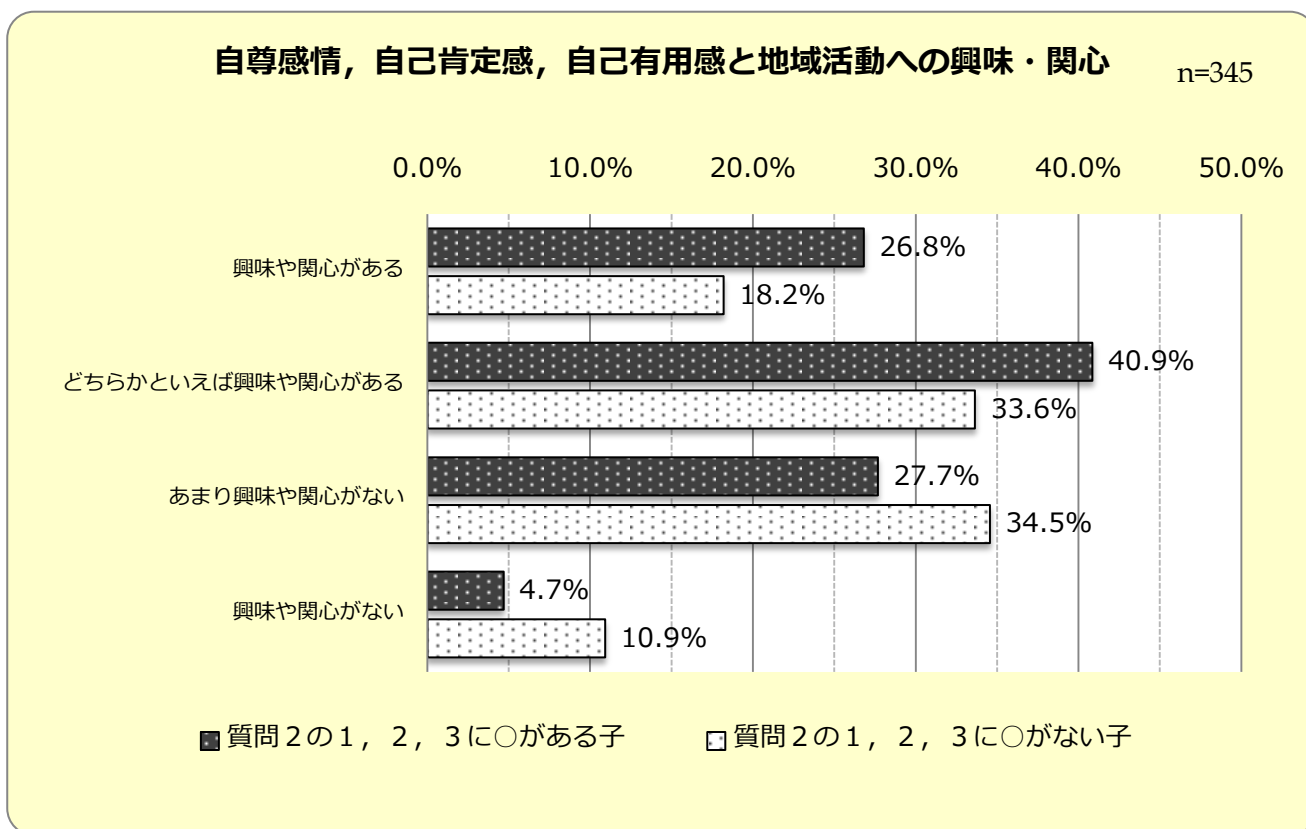
自己肯定感や自己有用感の高い子は, 地域活動に対して興味・関心をもっている

質問 あなたは, 町や地域で行っている行事に興味や関心がありますか?

質問2 自分自身のことについてお聞かせください。(あてはまると思うものすべてを選ぶ)

- 1 自分のことが好きだと思う 2 価値のある存在だと思う 3 誰かのために役立つことができると思う

自分は, 「自分のことが好き」「価値のある存在だ」「誰かのために役立つことができる」と自己評価している中学生は地域活動に対してどのような意識をもっているか集計した。



「1 自分のことが好き」「2 価値のある存在だ」「3 誰かのために役立つことができる」と自分のことをとらえている生徒は, 1~3のどれにも自分はあてはまらないとらえている生徒と比較して, 地域活動に対して興味や関心が高いことが分かる。

1-4 自己肯定感, 自己有用感と地域活動への参加

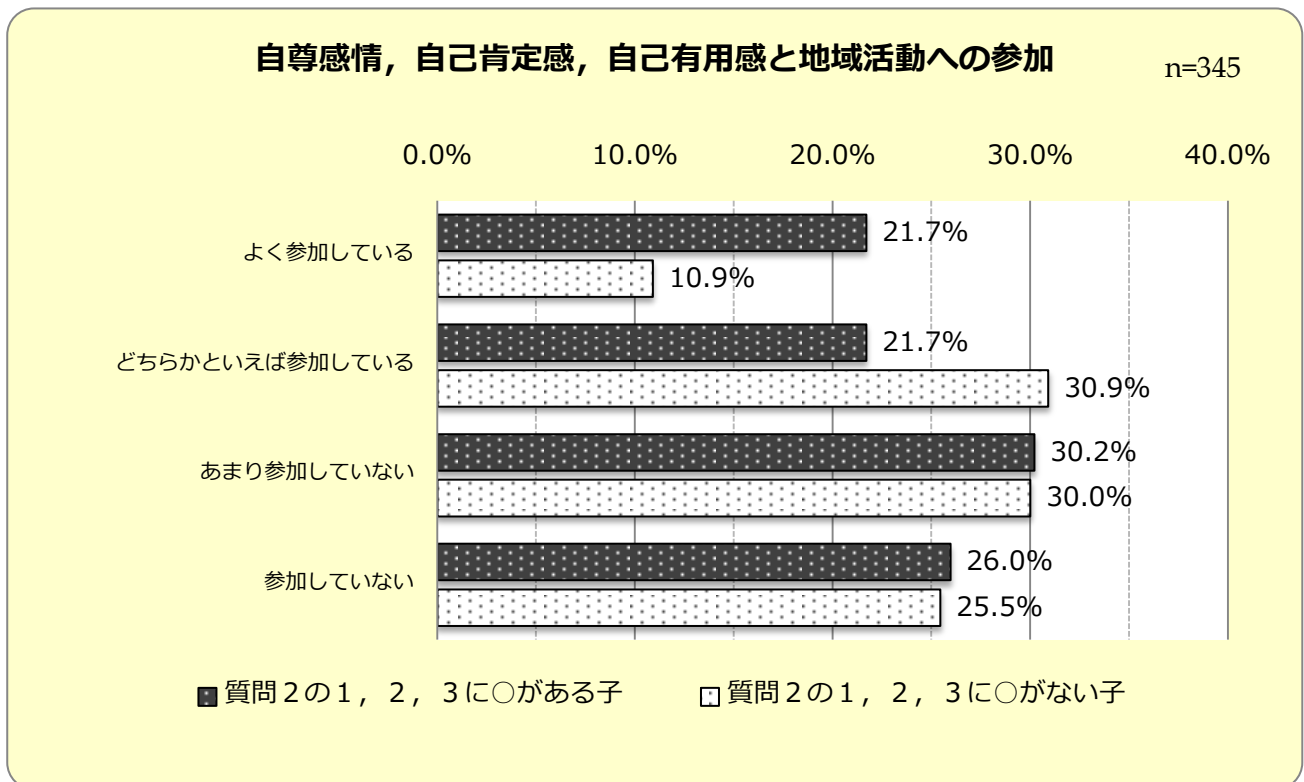
自己肯定感や自己有用感の高い子は地域活動によく参加している傾向がある。

質問 中学生になってから, 自分が住んでいる町や地域の行事に参加したことがありますか?

質問2 自分自身のことについてお聞かせください。(あてはまると思うものすべてを選ぶ)

- 1 自分のことが好きだと思う 2 価値のある存在だと思う 3 誰かのために役立つことができると思う

自分は, 「自分のことが好き」「価値のある存在だ」「誰かのために役立つことができる」と自己評価している中学生は地域活動に対してどの程度取り組んでいるか集計した。



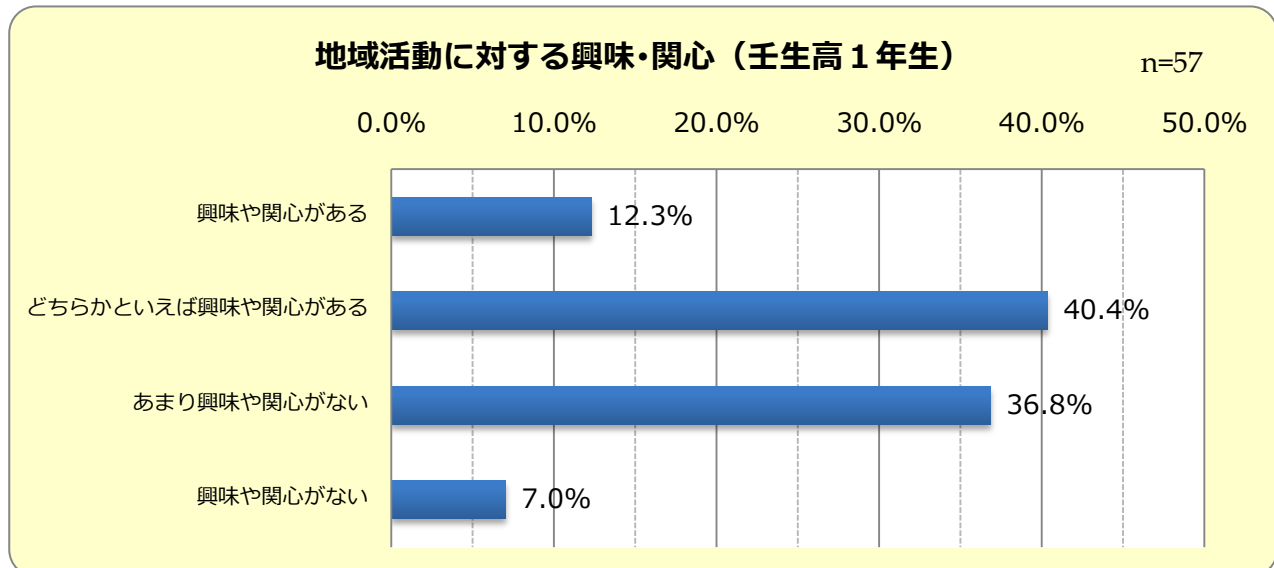
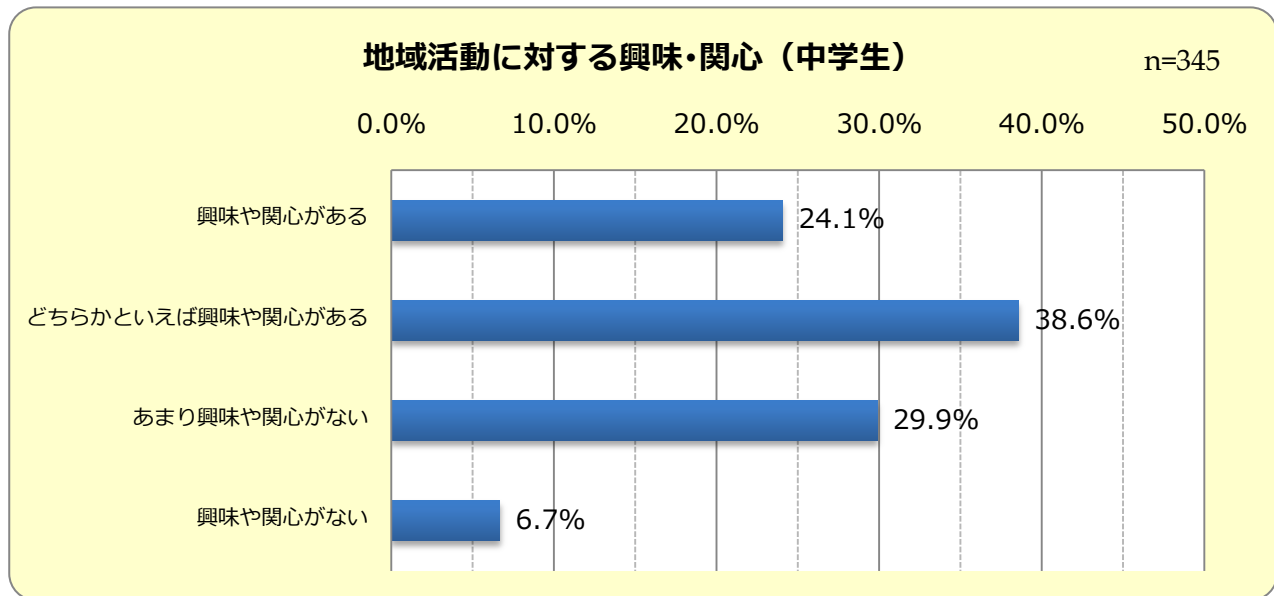
「1 自分のことが好き」「2 価値のある存在だ」「3 誰かのために役立つことができる」と自分のことをとらえている生徒は, 1~3のどれにも自分はあてはまらないととらえている生徒と比較して, 地域活動に「よく参加している」と回答している生徒の割合が高いことが分かる。

第2節 中学生，高校生の地域活動に対する意識調査

2-1 地域活動に対する興味・関心

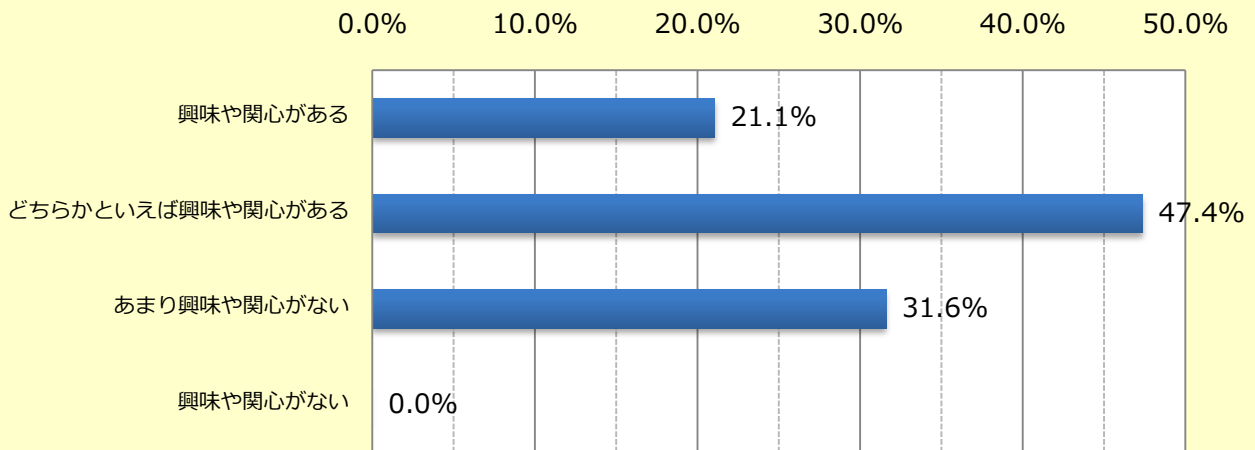
◇ 6割を超える中学生，5割を超える高校生が地域活動に対して興味や関心があると回答している。

質問 あなたは，町や地域で行っている行事に興味や関心がありますか。



地域活動に対する興味・関心（壬生高1年生・壬生町在住）

n=19

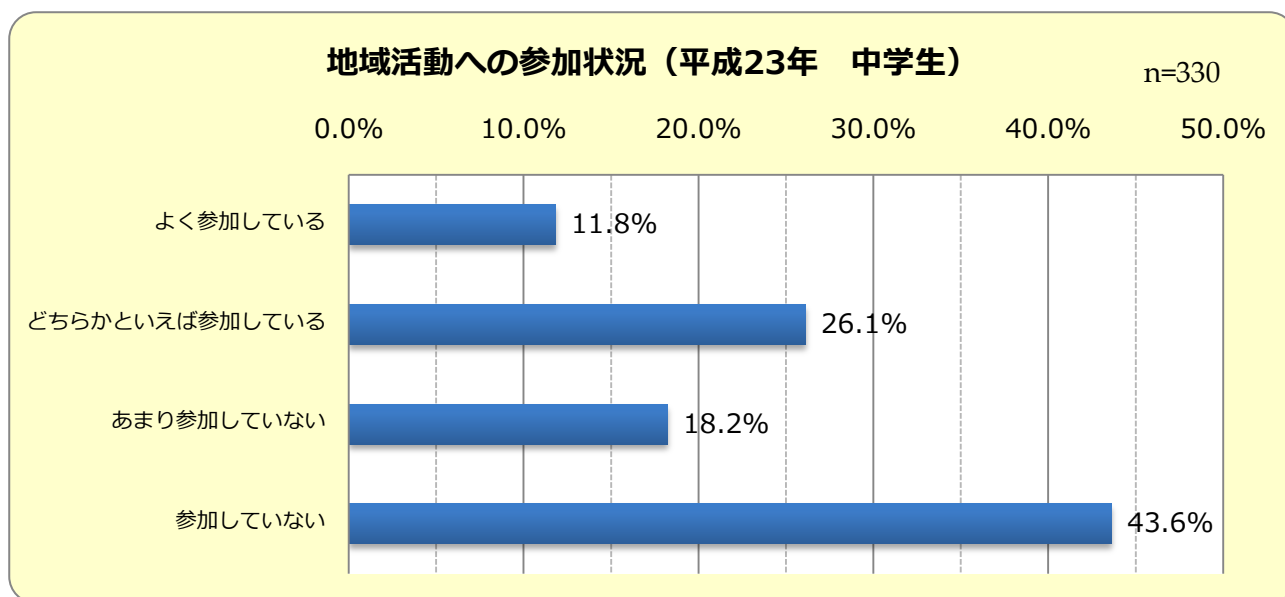
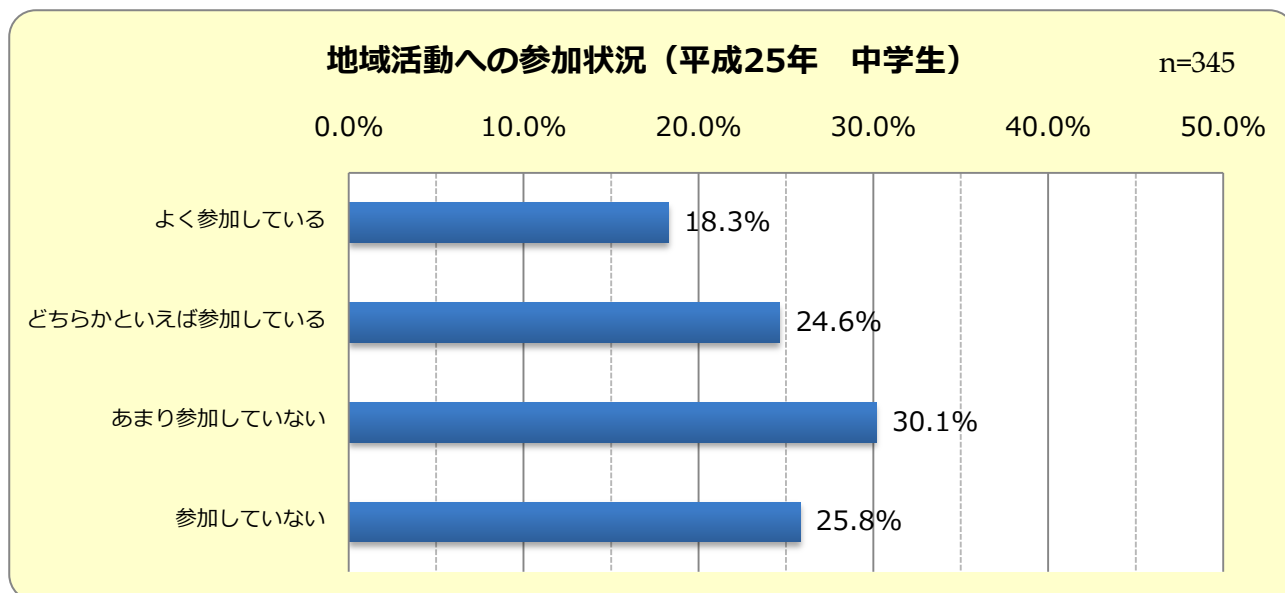


地域活動に対して、「興味や関心がある」「どちらかといえば興味や関心がある」と回答した生徒の割合は、中学生で62.7%，壬生高校1年生で52.7%であった。壬生高校1年生のうち壬生町在住の生徒を抽出してみると、68.5%と高い値を示している。

2-2 地域活動への参加状況(中学生)

◇ 2年前と比べ、地域活動に取り組んでいる中学生が増えている。

質問 中学生になってから、身近な地域や市町での活動や行事に参加したことがありますか？



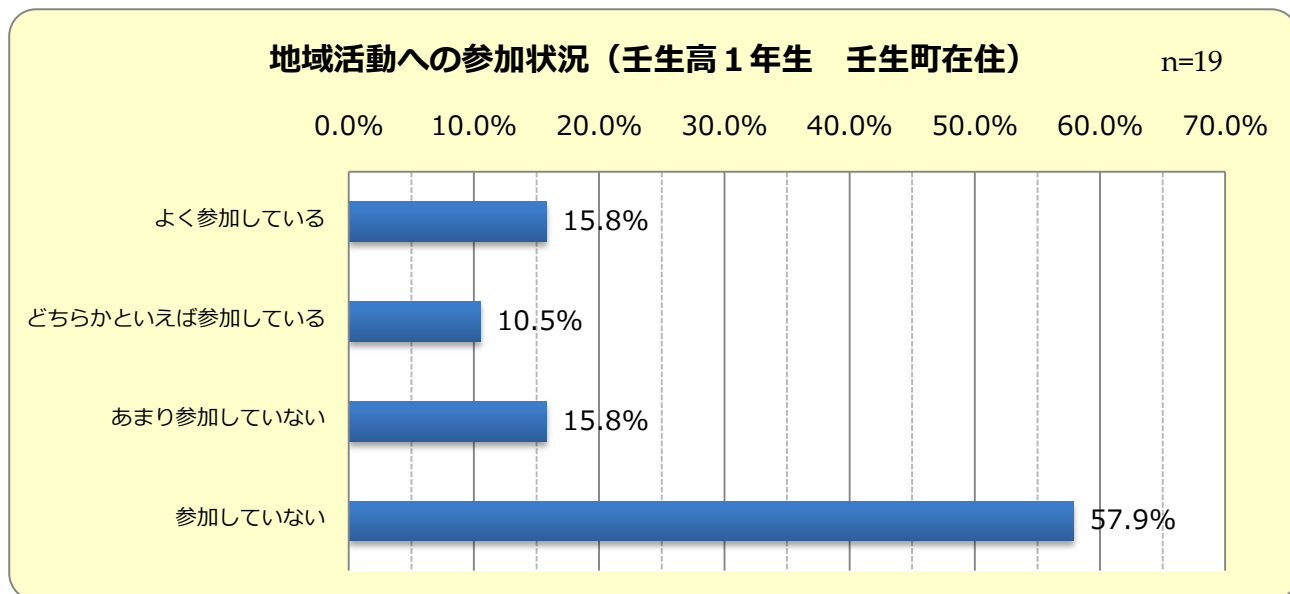
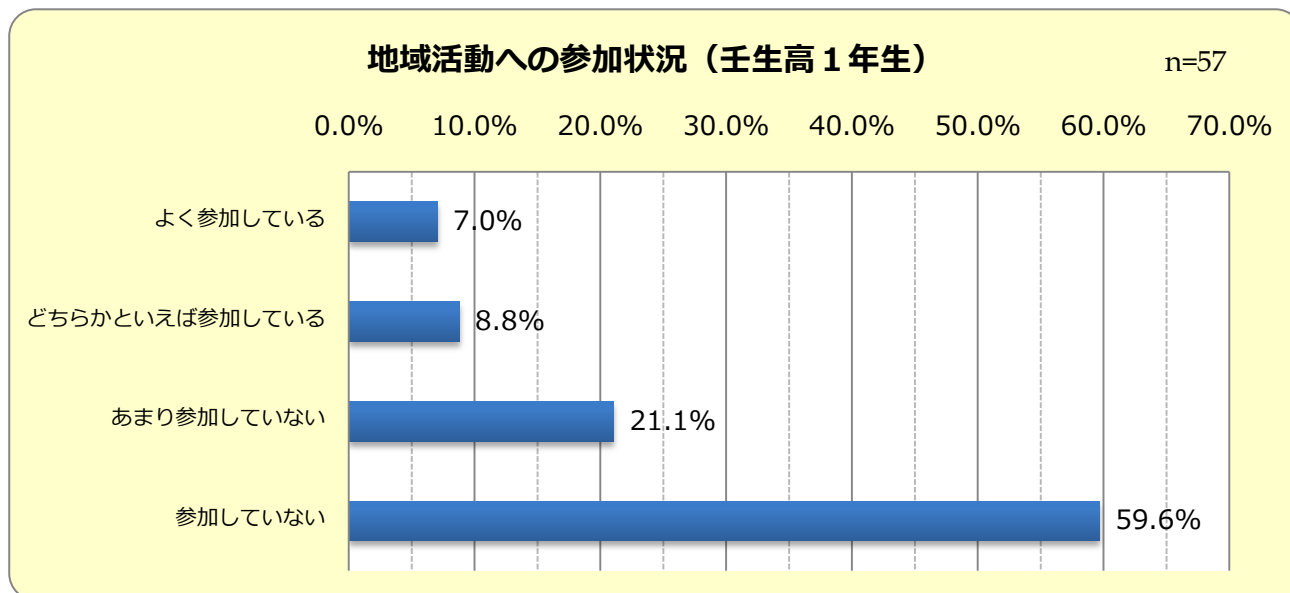
地域活動に「よく参加している」「どちらかといえば参加している」と回答した生徒の割合は42.9%であった。これを、中学生による地域活動が推進される2年前と比較すると、「よく参加している」「どちらかといえば参加している」と回答した生徒が5.0ポイント増加している。一方、2年前は「参加していない」と回答していた生徒が43.6%であったが、今年行った調査の結果では25.8%と17.8ポイント減少していることが分かる。

この結果は、中学生による地域活動が推進されてから、中学生の地域活動に対する関心が高まってきているデータであると捉えることができる。

2-3 地域活動への参加状況(壬生高校1年生)

◇地域活動に参加していない生徒の割合は、中学生から高校生になると3割以上増加する。

質問 高校生になってから、身近な地域や市町での活動や行事に参加したことがありますか？



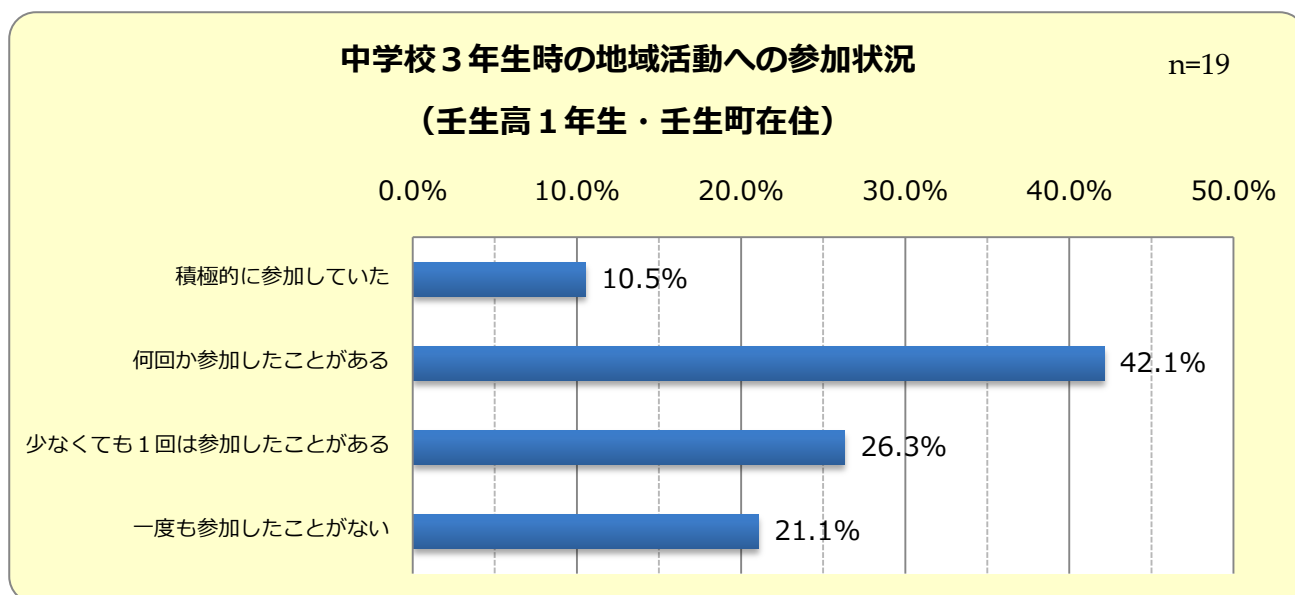
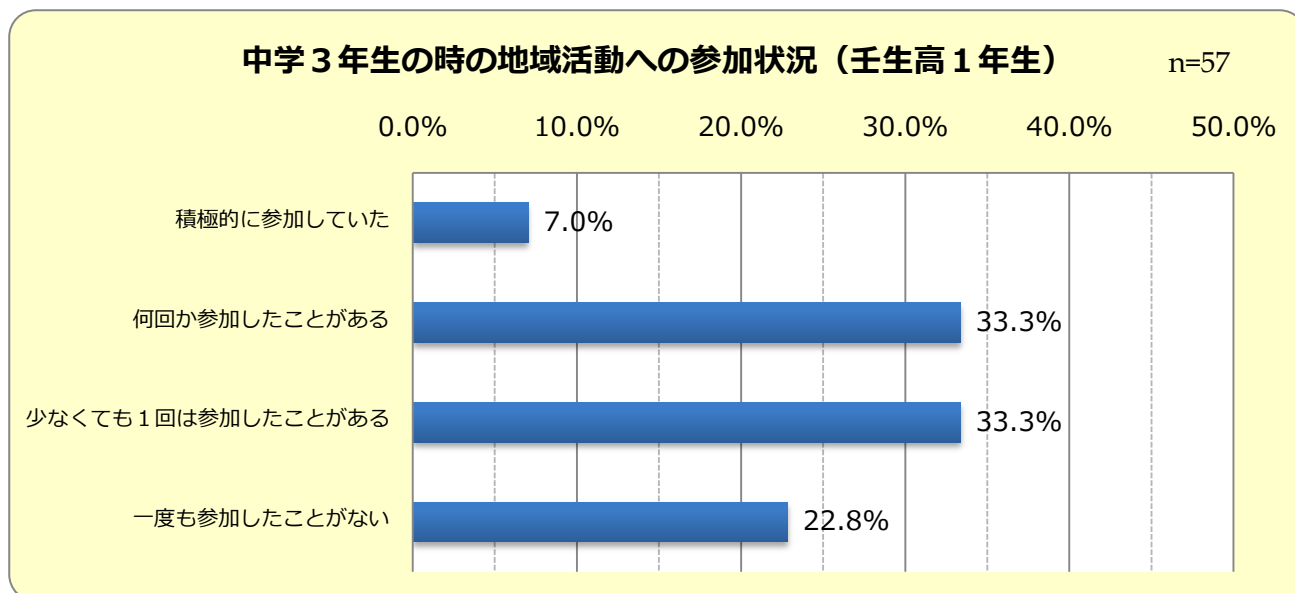
高校生の地域活動への参加状況は、「よく参加している」「どちらかといえば参加している」と回答している生徒が15.8%にとどまっている。これは、中学生で42.9%に対して、大幅に下回っている。

地域活動に対して興味や関心を示している生徒の割合が5割を超えているのに対して、実際の地域活動への参加率は極めて低い状況といえる。2年前の中学生の地域活動への参加状況を示したグラフと今年の高校生の地域活動への参加状況を示したグラフは参加していないと回答している生徒が多いことで類似している。

2-4 中学校3年生の時の地域活動への参加状況

◇高校生になると地域活動への参加の割合が低下している。

質問 中学3年生の時に、自分にとって身近な地域での活動や行事に参加したことがありますか？



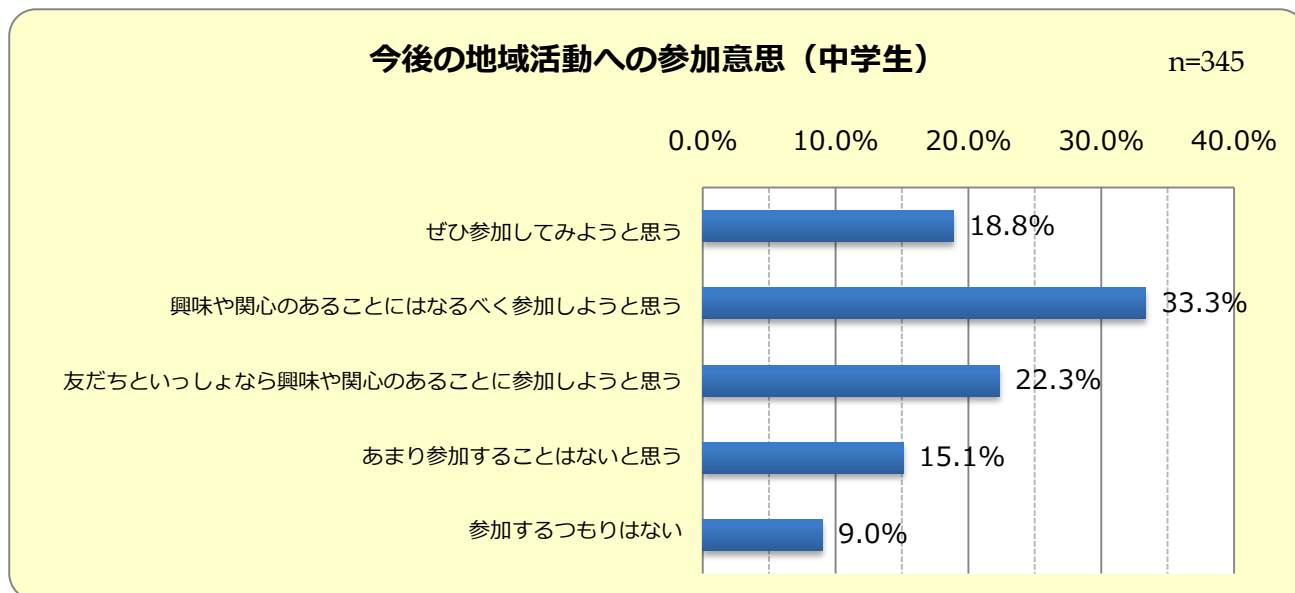
中学3年生の時に地域の活動や行事に参加したことがある生徒は77.2%である。うち壬生在住の子で、積極的に、何回か参加したことがある生徒は52.6%の割合を示した。2-1の結果からも分かるように、地域活動に対する興味や関心は中学の時から引き続きもっているが、実際に参加できる機会がないために、高校生になると地域活動への参加の割合が低下していると考えられる。

このことから、中学生による地域活動の推進を行ったように、中学校を卒業した青少年に対しても、地域活動への参加の機会をどのようなかたちかで提供することができれば、地域活動に対して興味や関心をもっている生徒や中学校の時に積極的に地域活動へ参加していた生徒が参加してくることが期待できる。

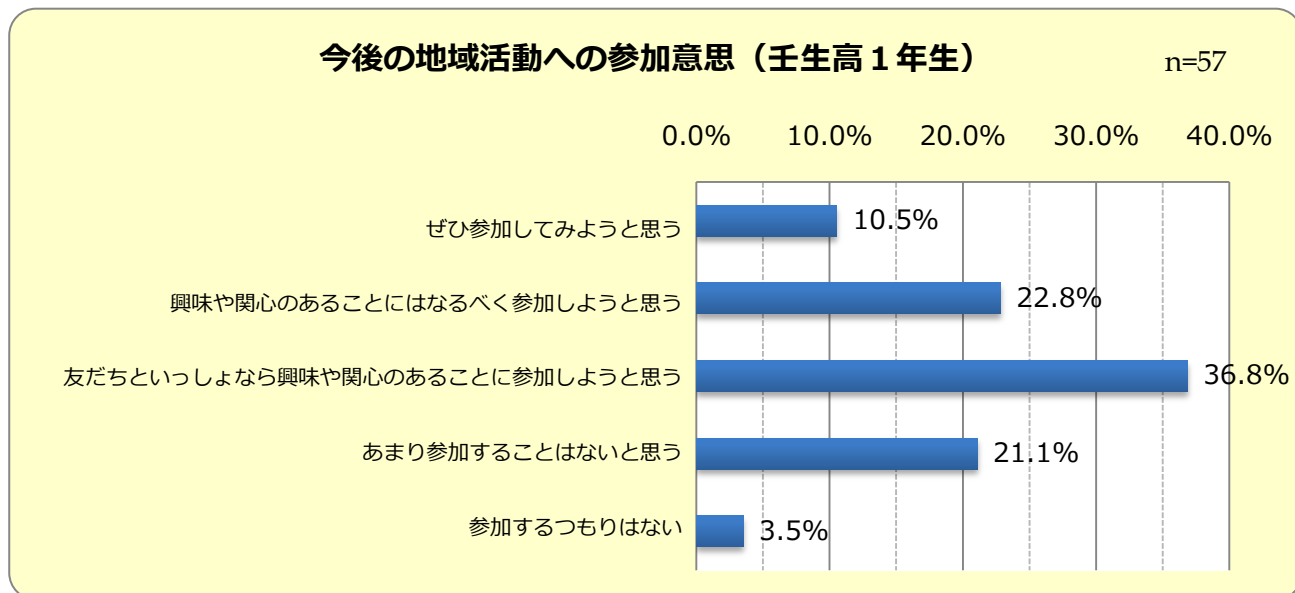
2-5 今後の地域活動への参加意識

◇ 7割を超える中学生と高校生が、今後、機会があれば地域活動に参加してみようと思っている。

質問 中学を卒業してから、自分の住んでいる町や地域での行事に参加する機会があったらどうしますか？

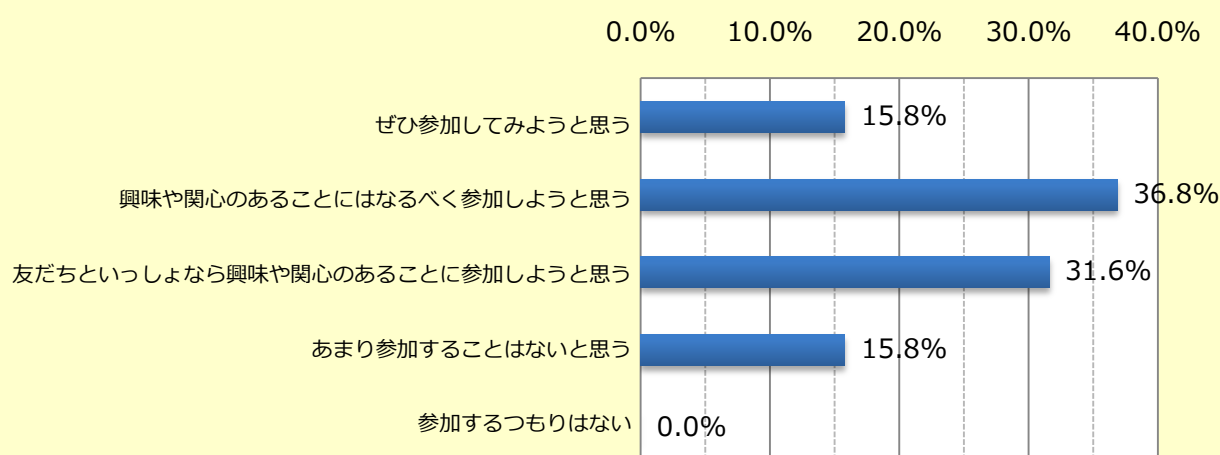


質問 身近な地域や市町で、高校生が参加できる地域活動や行事があったらどうしますか？



今後の地域活動への参加意思（壬生高1年生 壬生町在住）

n=19



今後の地域活動への参加の意思を調査してみると、機会があれば地域活動に参加してみようと思っている生徒が、中学生では75.9%、高校生は75.4%（壬生町在住84.2%）の割合である。このことから、中学校を卒業してからも地域活動に参加できる機会を提供することが大切であるということがわかる。

また、生徒の興味や関心に応じて活動が選べるよう、友だちを誘って気軽に参加できるよう、環境を整えることも大切になってくると考えられる。

2-6 今後参加したいと思う地域活動

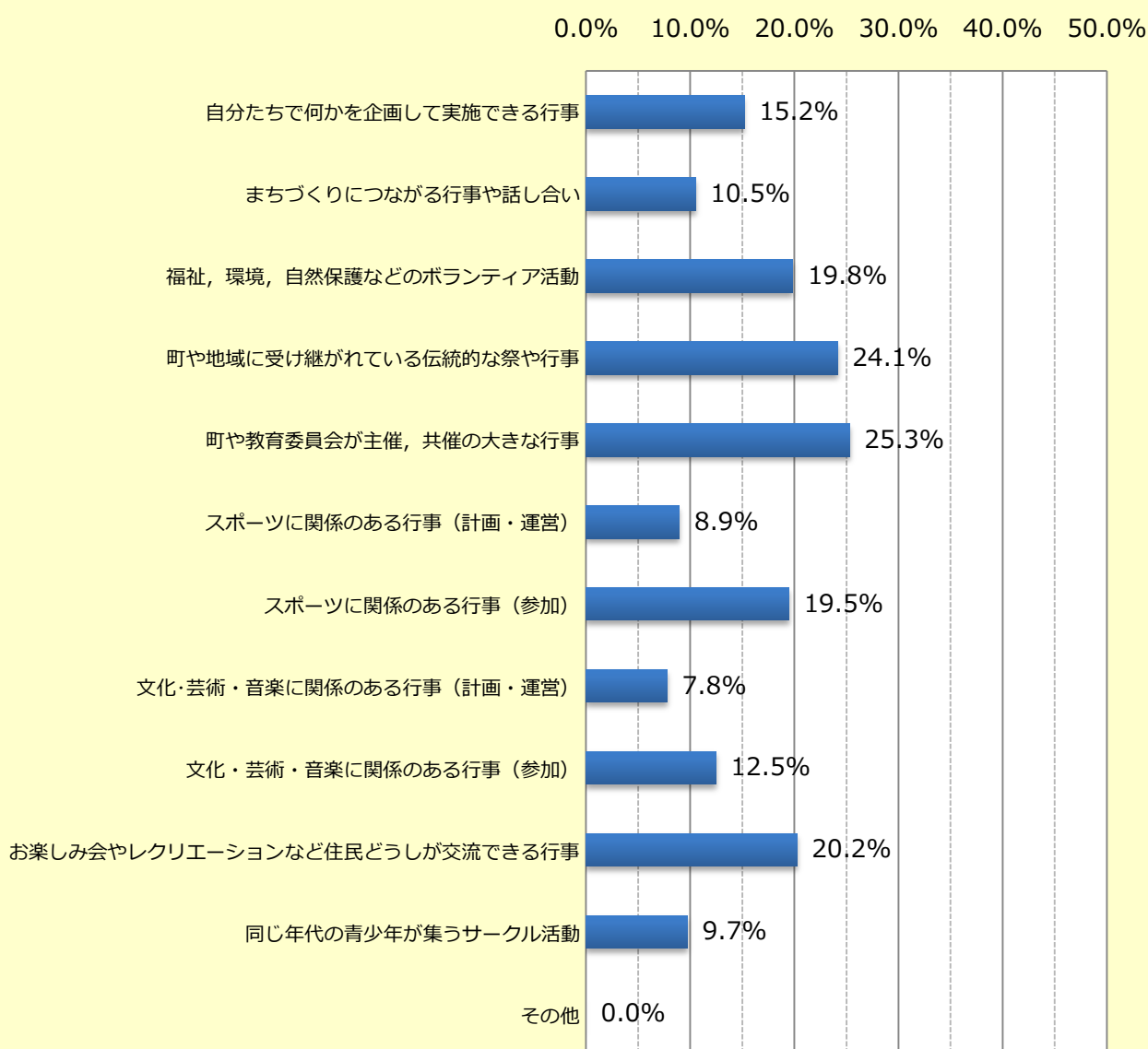
◇今後参加したいと思う地域活動の内容はさまざま。多種多様な興味や関心に応えられるように機会の提供をしていくことが必要である。

質問 どのような地域活動や行事に参加してみようと思いますか？

今後、地域活動に参加してみたいと回答した生徒を対象に調査した。

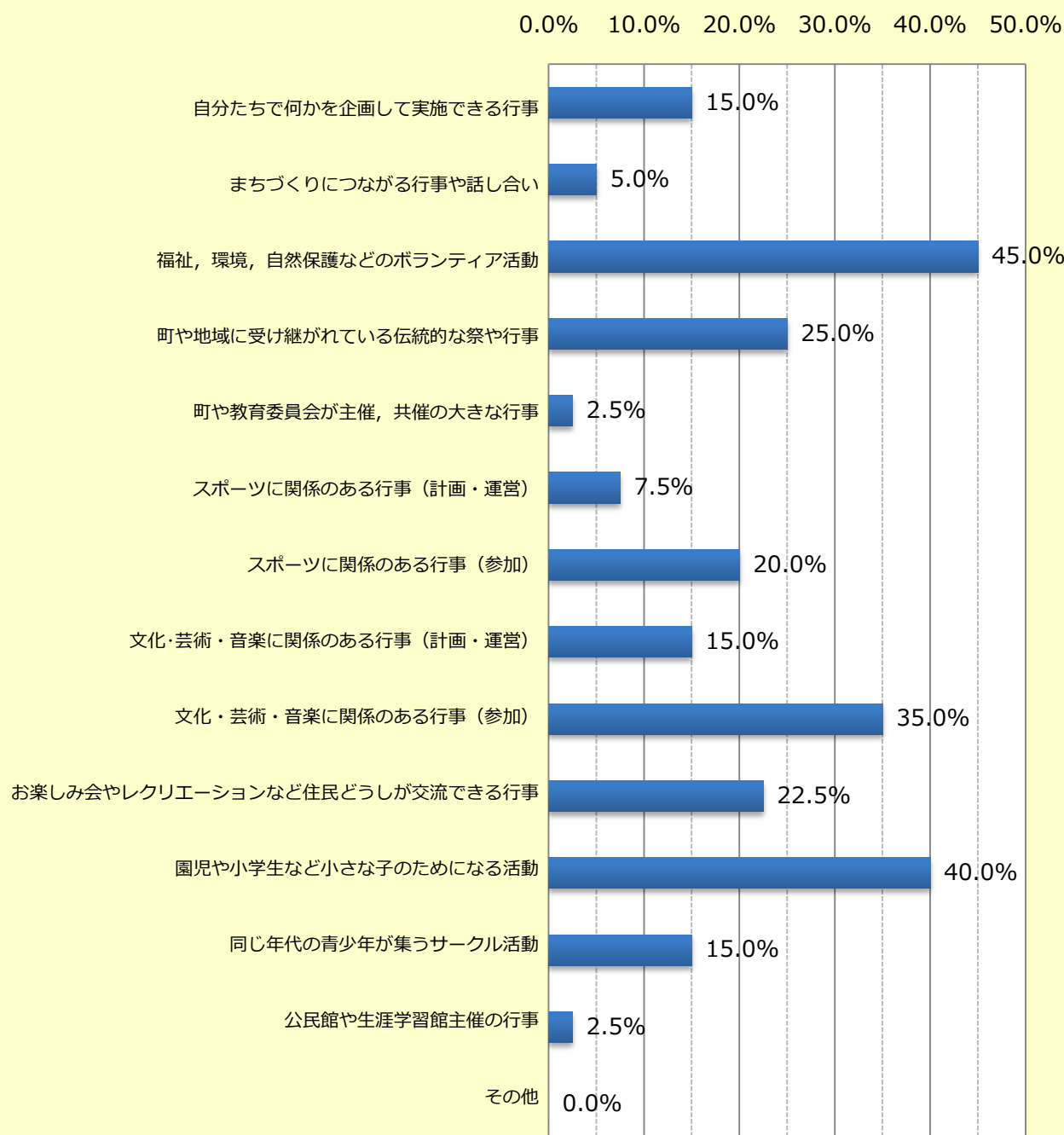
今後参加してみたいと思う地域活動（中学生）

n=257



今後参加してみたいと思う地域活動（高校生）

n=40



中学生も高校生も、いろいろな内容の地域活動に参加してみたいと思っていることがわかる。中学生と高校生とで差が見られた内容の一つに町や教育委員会が主催、共催の大きな行事があげられる。中学生で回答の割合が高いが、これは、現在進められているプラットフォームによる地域活動の推進がよい方向に影響しているものと推測できる。一方高校生では、福祉、環境、自然保護などのボランティア活動や小さな子のためになる活動（中学生には選択肢が設けられていない）が高い割合を示している。これは、誰かのため、何かのため自分にできる範囲において役に立ちたいという気持ちの表れであるととらえることができる。

第3節 保護者の地域活動に対する意識調査

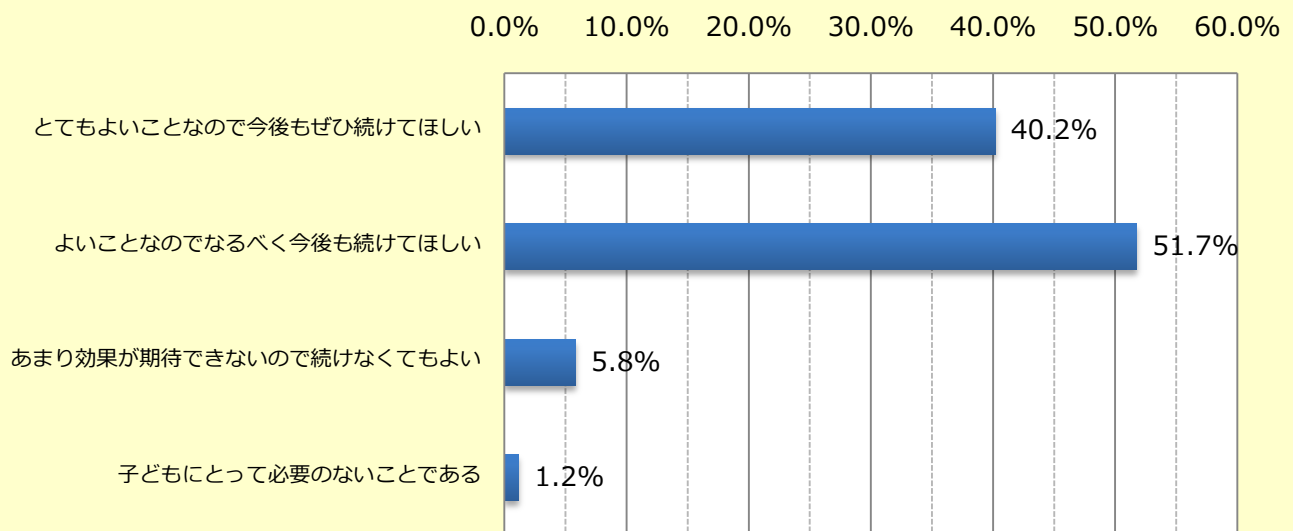
3-1 「中学生による地域活動の推進」に対する保護者の意識

◇現在推進されている中学生による地域活動を，中学生の保護者も高校生の保護者も好意的に受けとめている。

質問 壬生町教育委員会では，平成24年度から中学生による地域活動を推進しておりますが，このことについてどのようにお考えですか？

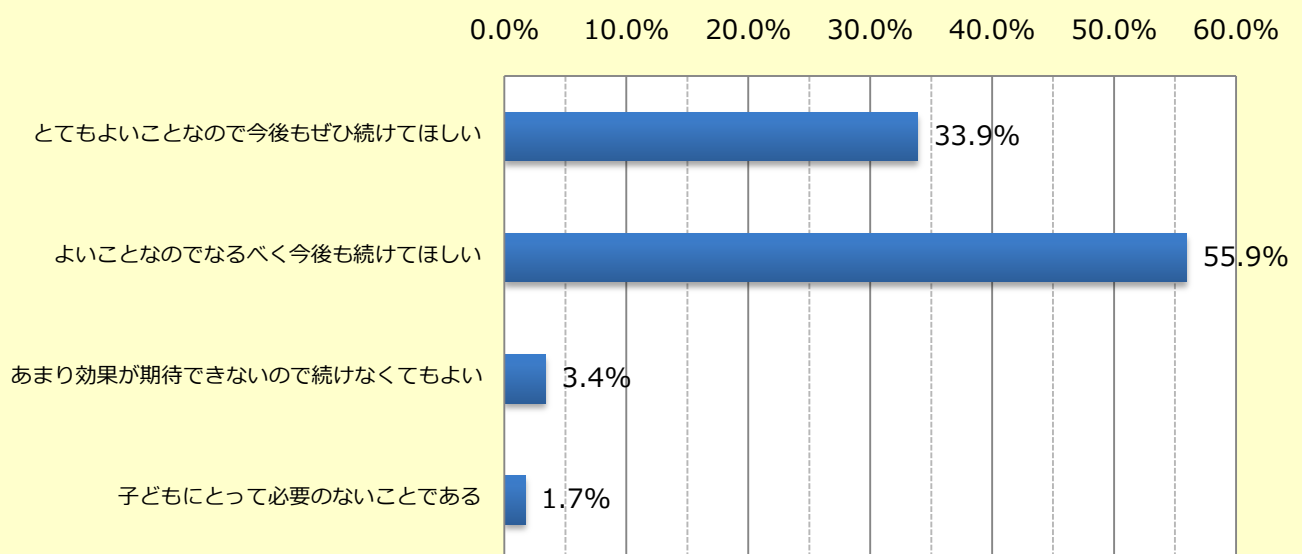
中学生による地域活動に対する保護者の意識（中学生保護者）

n=346



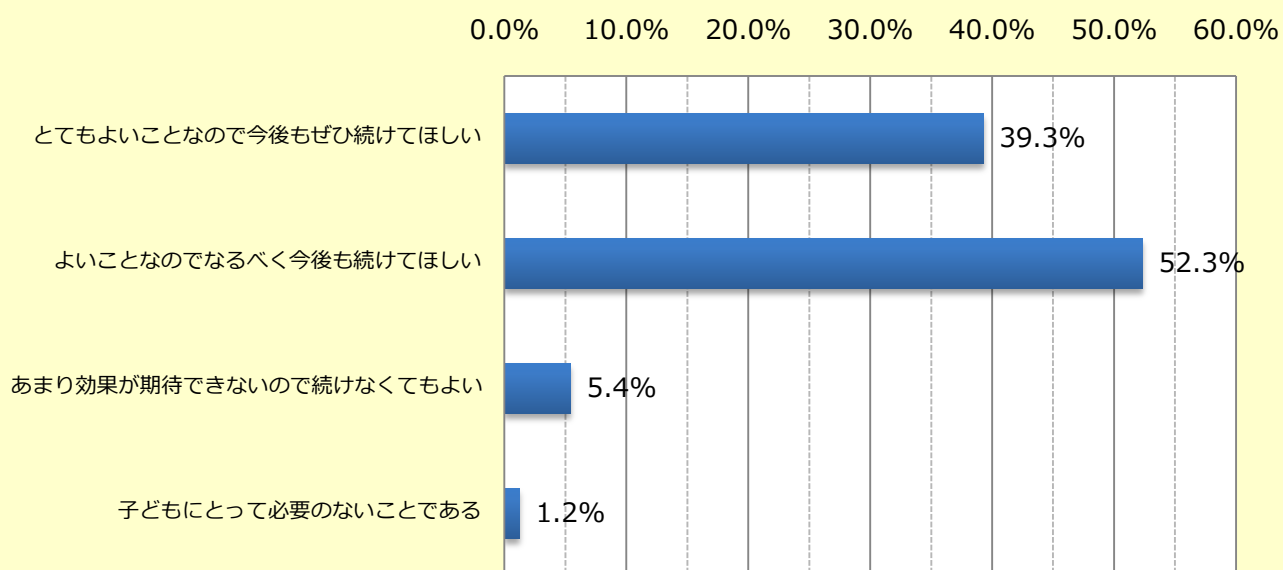
中学生による地域活動に対する保護者の意識（高校生保護者）

n=59



中学生による地域活動に対する保護者の意識（全保護者）

n=405



中学生による地域活動の推進に対して「とてもよいことなので今後もぜひ続けてほしい」「よいことなのでなるべく今後も続けてほしい」と回答している保護者は、中学生の保護者で91.9%、高校生の保護者で89.8%、全保護者で91.6%といずれも高い割合を示している。

中学生の保護者も高校生の保護者も中学生による地域活動を好意的に受け止めていることがわかる。

3-2 わが子が地域活動に参加することに対する保護者の意識

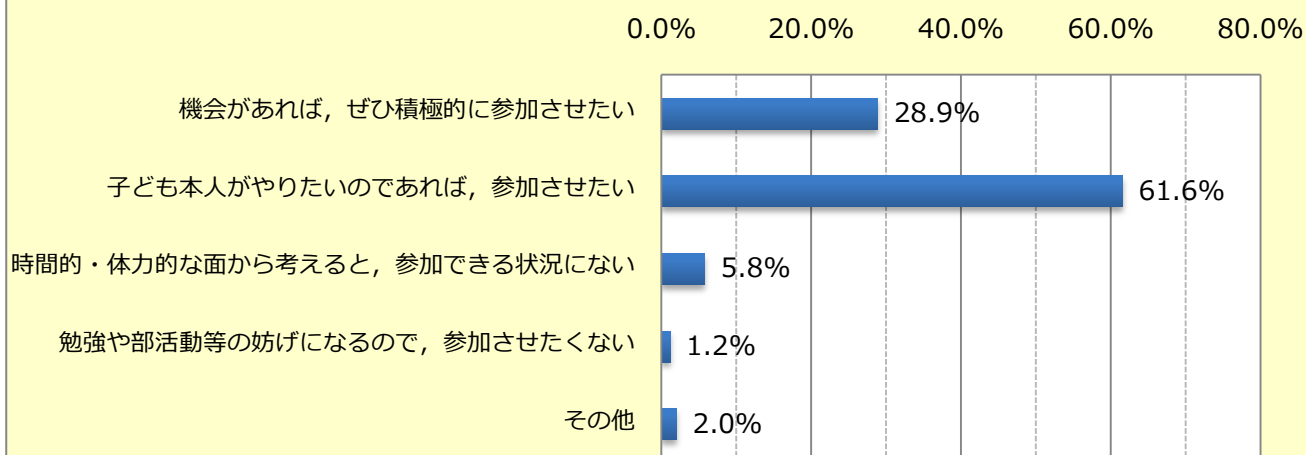
◇ 9割の保護者が、わが子を地域活動に参加させたいと考えている。

質問 自分のお子さんが地域の行事に参加することについて、あなたはどのようにお考えですか？

わが子が地域活動に参加することについての保護者の意識

n=346

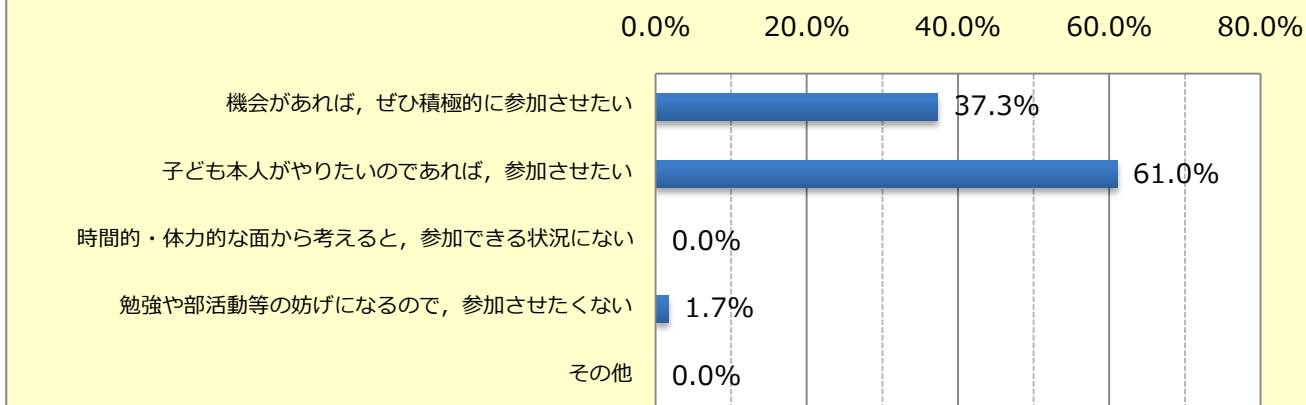
(中学生保護者)



わが子が地域活動に参加することについての保護者の意識

n=59

(高校生保護者)



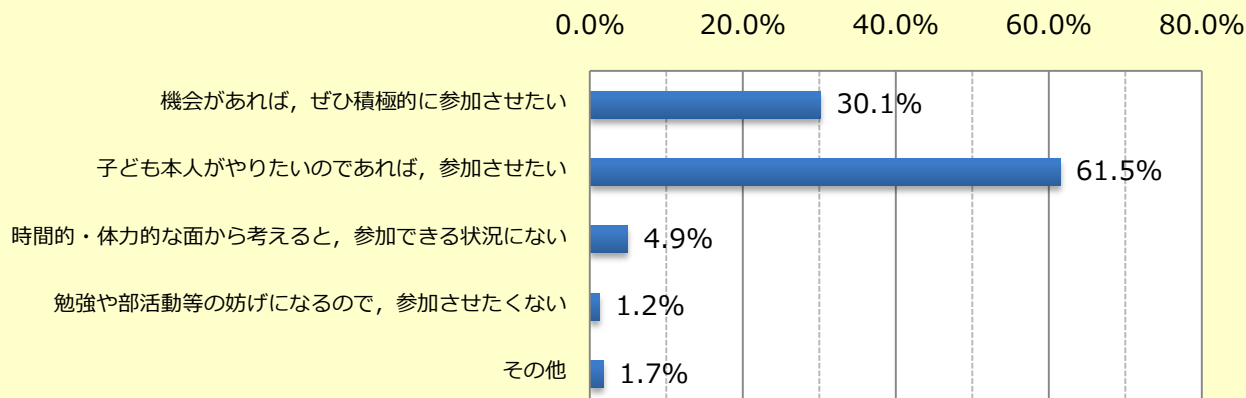
わが子に地域活動にぜひ参加してほしいと望んでいる保護者は、中学生の保護者で28.9%、高校生の保護者で37.3%いる。本人がやりたいのであれば、参加させたいと考えている保護者は、中学生の保護者で61.6%、高校生の保護者で61.0%であった。

このことから、保護者はわが子に地域に出てさまざまな活動に取り組んでもらいたいと考えていることがうかがえる。

わが子が地域活動に参加することについての保護者の意識

n=405

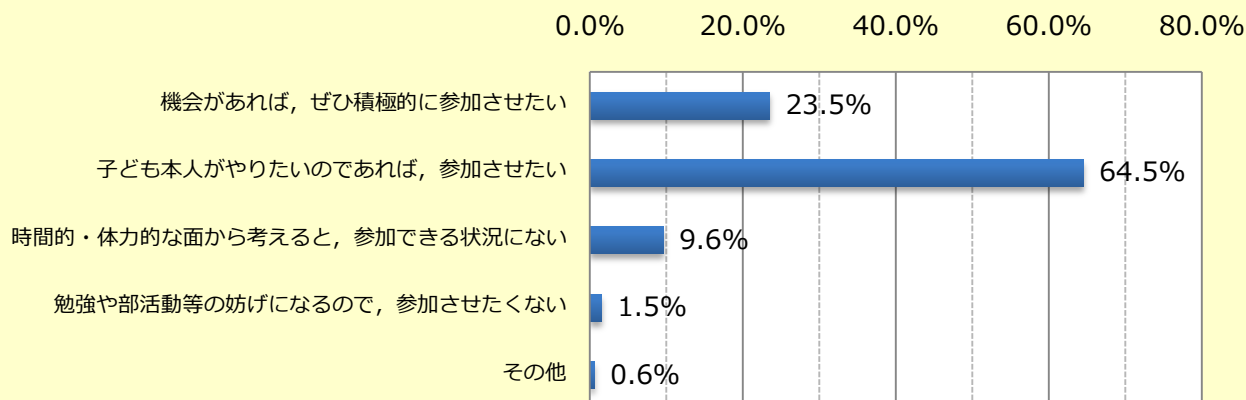
(全保護者)



わが子が地域活動に参加することについての保護者の意識

n=324

(中学生保護者を対象にした2年前の調査より)



中学生による地域活動が推進される以前と現在とで、わが子が地域活動に参加することについての保護者の意識にどのような変化が表れているか比較した。2年前の調査では、「積極的に参加させたい」と回答していた中学生の保護者は23.5%であった。中学生による地域活動が推進されて1年5ヶ月が経過した今年の9月では、「積極的に参加させたい」と回答している中学生の保護者は28.9%と、2年前と比べて5.4ポイント増加していることが明らかになった。

一方、積極的に参加させたいが、部活動との兼ね合いが理由で困難であるとその他の欄で回答している保護者もいるのが現状である。

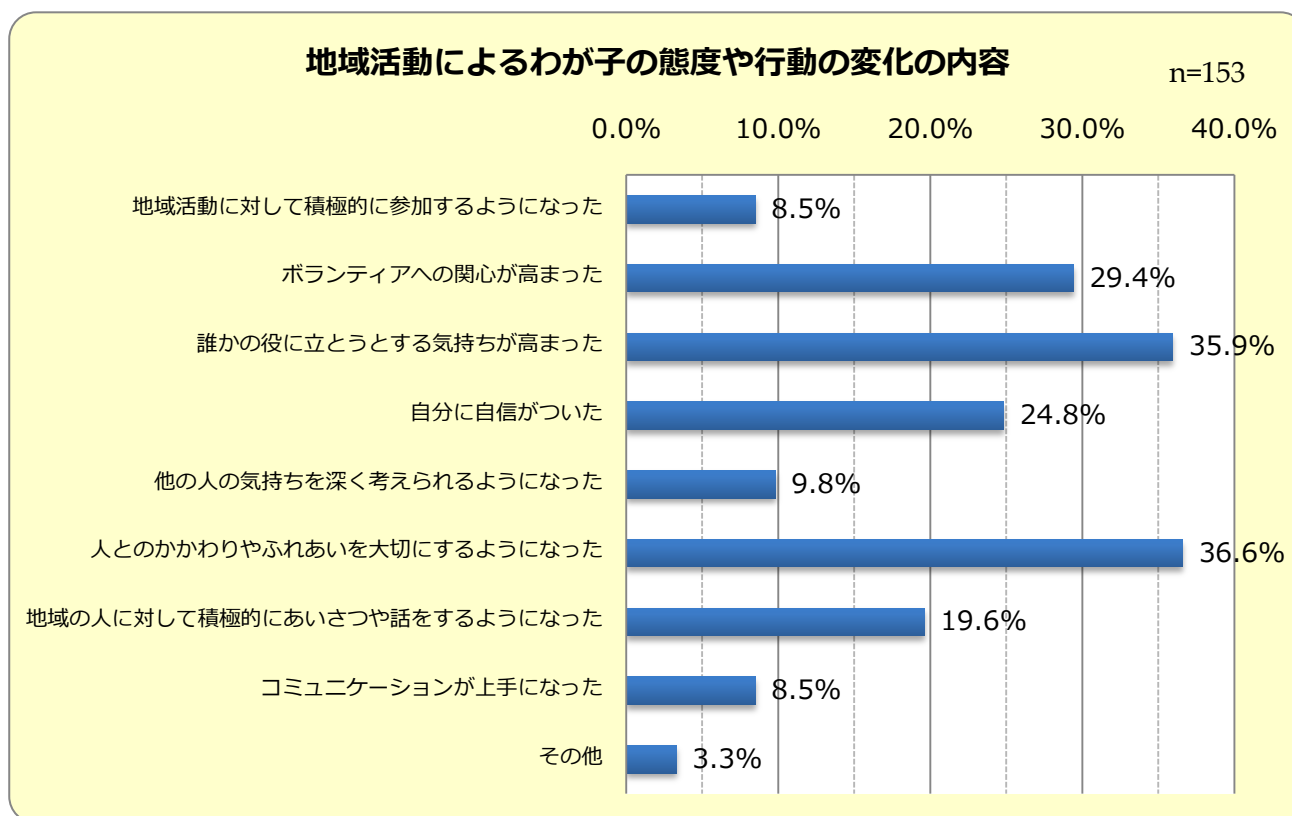
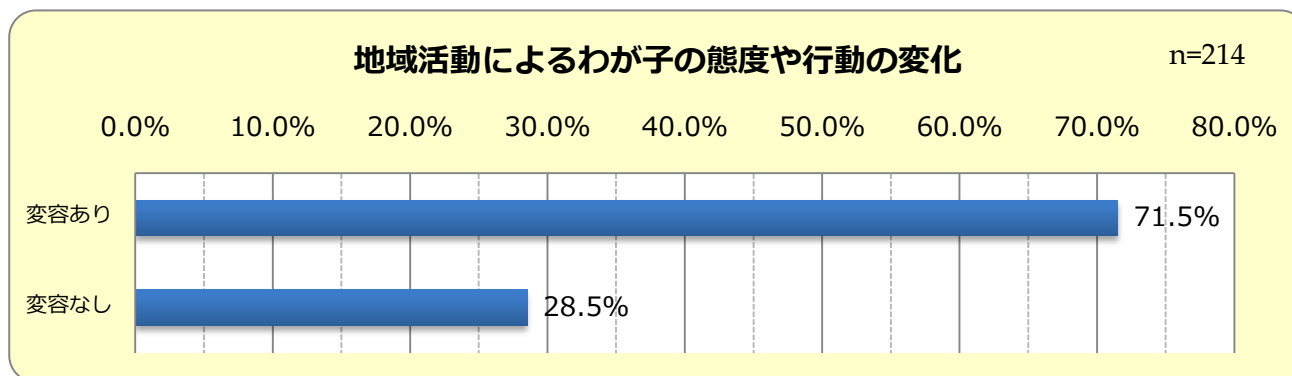
また、地域活動に参加させたいと思っている中学生の保護者313人のうち、143人が自分の子が地域活動に参加していないと回答している。同様に、地域活動に参加させたいと思っている高校生の保護者58人のうち、31人が自分の子が地域活動に参加していないと回答している。中高生を取り巻く環境などさまざまな理由から、保護者の思いと実際の中高生の地域活動への取り組みにギャップが生じていることがわかった。

3-3 保護者が感じ取っている地域活動へ参加したわが子の態度や行動の変化

◇地域活動に参加したことのある子をもつ保護者の多くが、わが子の態度や行動に変化を感じ取っている。

質問 お子さんが市町や地域での活動や行事に参加したあと、以前と比べて態度や行動に変化はありましたか。

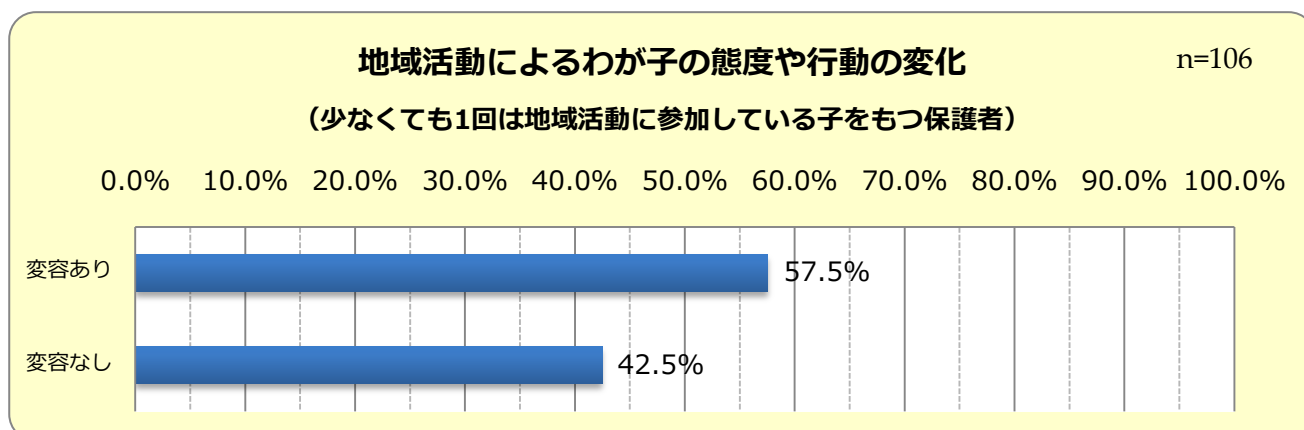
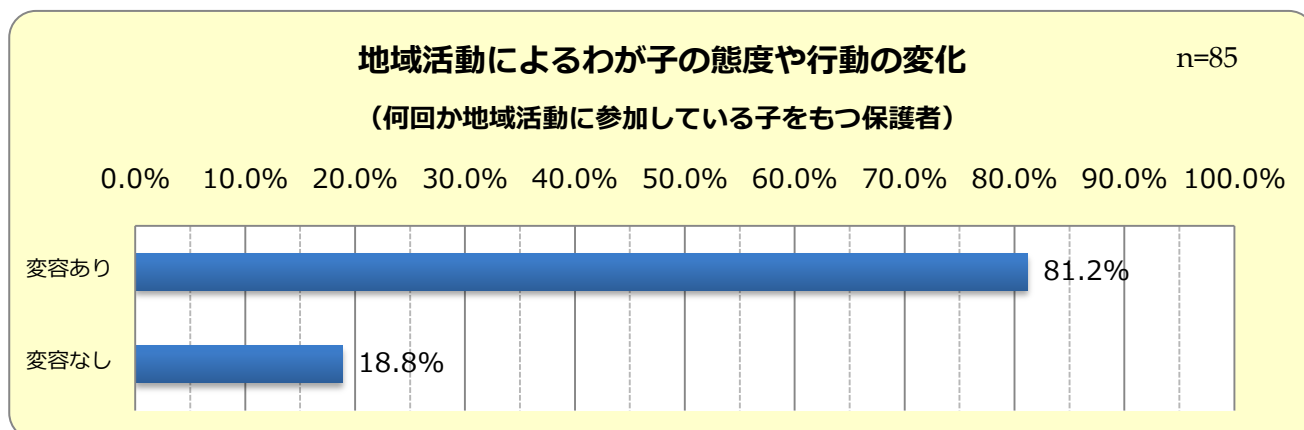
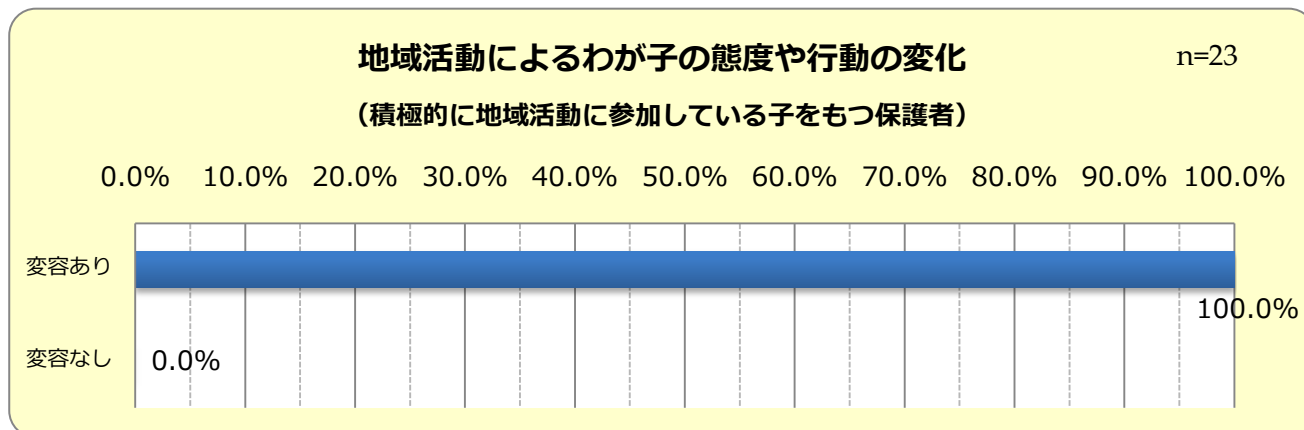
地域活動に参加した子をもつ保護者を対象に調査した。



地域活動に参加したことがある子どもをもつ保護者のうち、地域活動に参加してからわが子に何らかの変容を感じ取っている保護者の割合は71.5%であった。これは、変容が認められないと感じている保護者の28.5%を大きく上回っていることがわかる。

◇より積極的に地域活動に参加している子をもつ保護者ほど、わが子の態度や行動に変容を認めている傾向がある。

保護者がわが子の態度や行動に変容を認められている割合が、子どもの地域活動への参加頻度でどのように変わるのかを比較してみた。

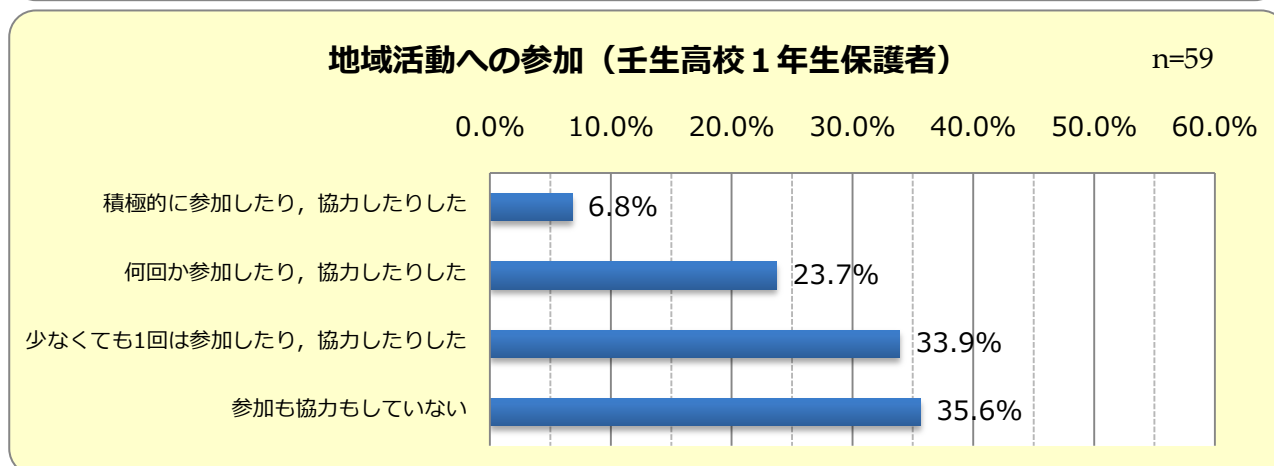
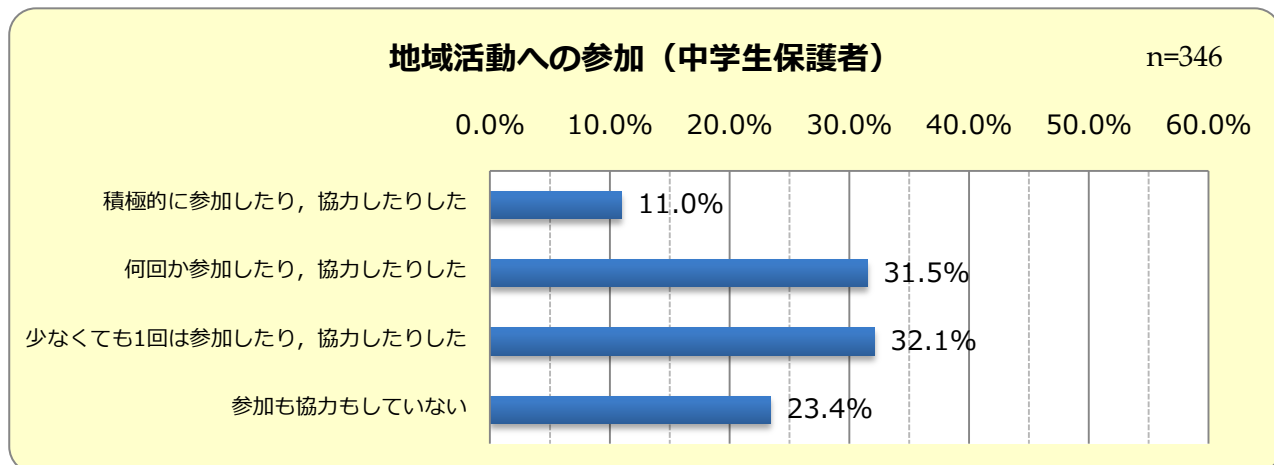
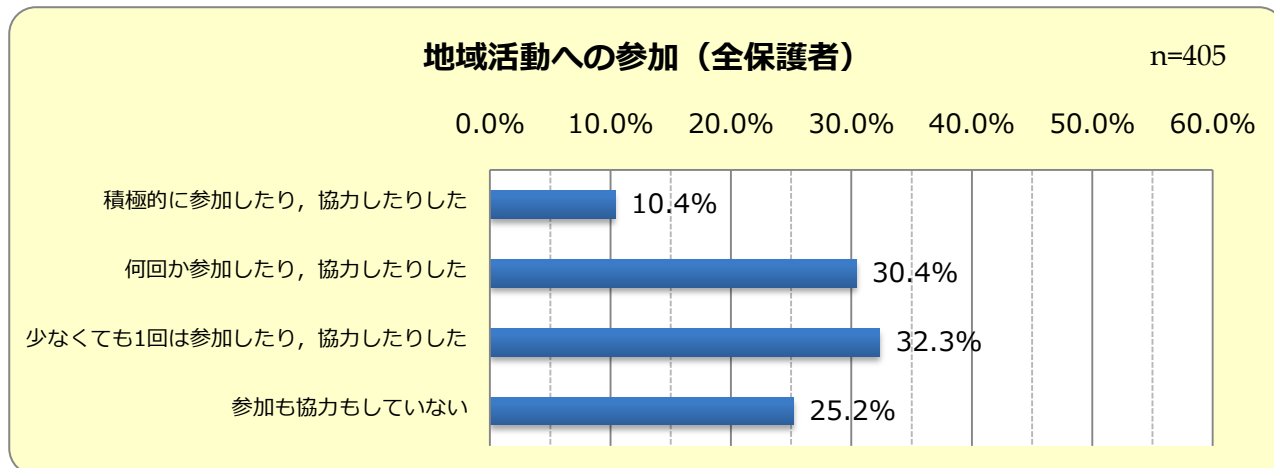


この結果から、積極的に地域活動に参加している子をもつ保護者は、わが子の態度や行動にプラスの変容が認められていると感じている割合が高いということがわかった。

3-4 保護者自身の地域活動への参加

◇ 4分の1の保護者が地域活動に参加も協力もしていない。

質問 あなたは（保護者のみなさまご自身が）、ここ1年間で市町や地域の行事等に参加したことがありますか？

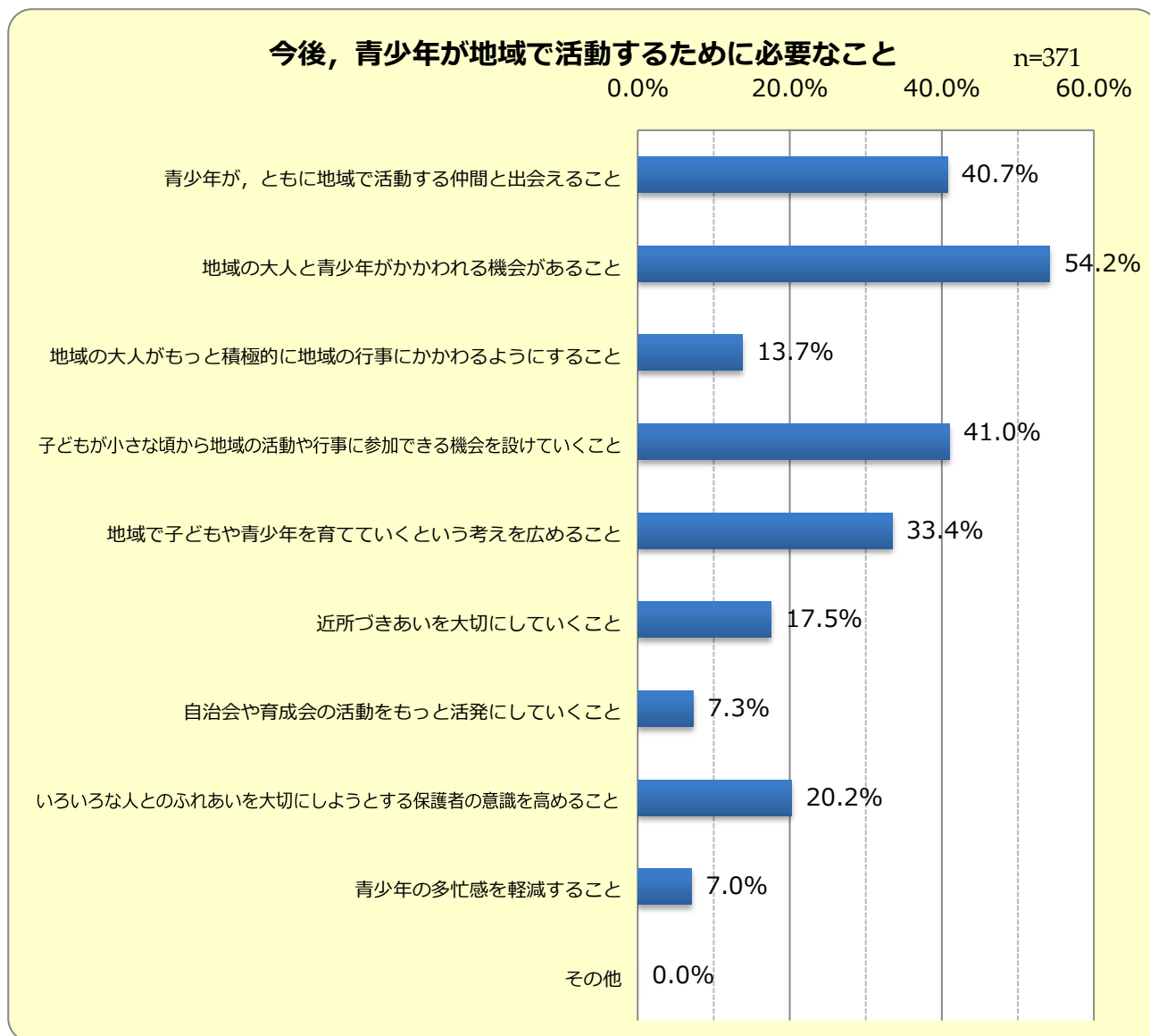


保護者の地域活動への参加状況を見てみると、参加も協力もしていないと回答している保護者が全体の4分の1いる。中学生の保護者と高校生の保護者を比較してみると、高校生の保護者の方が地域活動に協力や参加をしていない傾向がある。

3-5 今後の青少年による地域活動で大切なこと(保護者の意見)

◇保護者は、「ともに地域で活動する仲間との出会い」「地域の大人と青少年とのかかわり」「小さな頃から地域活動に参加できる機会」が大切だと考えている。

質問 今後、中学校を卒業した青少年にも地域での活動や行事に参加してもらうために大切なことは何だと思いますか？



「地域の大人と青少年とがかかわれる機会があること」「子どもが小さな頃から地域の活動や行事に参加できる機会を設けていくこと」「青少年が、ともに地域で活動する仲間と出会えること」「地域で子どもや青少年を育てていくという考えを広めていくこと」などの考えが多い。

いずれも大人の役割が重要になってくるが、しかし、大人がもっと地域の行事にかかわるようにすることが重要と回答している割合がそれほど高くない。青少年が地域で活動するには大人の力が必要と思いつながら、その大人とは自分以外の誰かと捉えているようにも感じられる。